



TITLE:

歐米再遊日誌(5)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 歐米再遊日誌(5). 天界 1939, 19(214): 117-120

ISSUE DATE:

1939-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167769>

RIGHT:



## 歐米再遊日誌 (5)

理學博士 山本一清

8月13日 (土曜日)

HOLLAND-AMERICA LINE

朝、7時半までよく眠つた。8時20分食事、

それから甲板散歩。

正午、佛國ブローン港に投錨。新聞を賣りに來たので、パリのもの2種を買ふ。チェコ問題が非常にやかましい。15時までひるね。

夕食後、右舷に英國ボーツマス軍港が見えた。21時、サザンプトン港に入り23時出帆。寒いので、厚いシャツを着る。

8月14日 (日曜日) 曇。

夜中、0時半頃、暫く停船したらしい。8時起き、食後、室内で日誌をかく。正午、英國西端のシリ諸島を通過す。之れが歐洲の見納めである。

8月15日 (月曜日) 雲と霧。

正午の船の位置、西經  $15^{\circ}35'$ 、北緯  $50^{\circ}0'$ 。昨日より航走 360 哩。當分の間、毎夜半に時計を 48 分だけ遅らせる。

午後、太平洋の船便問ひ合はせのためニウヨークの矢島氏に電報を發した。

8月16日 (火曜日) 曇。

正午の船の位置、西經  $23^{\circ}55'$ 、北緯  $49^{\circ}18'$ 、昨日より航走 322 哩。

北北西の強風で、波は高く、船はおそい。自分は終日臥床。朝食は略した。氣温  $18^{\circ}$ 、水温  $16^{\circ}$ 。

15時半、ニウヨークの矢島氏より來電。照川丸は9月4日頃ロスアンゲルス出帆の由。之れで大に安心した。萬事好都合、まことに天祐である。

8月17日 (水曜日) 晴。うねり。

正午の船の位置、西經  $32^{\circ}26'$ 、北緯  $48^{\circ}0'$ 。航走 337 哩。

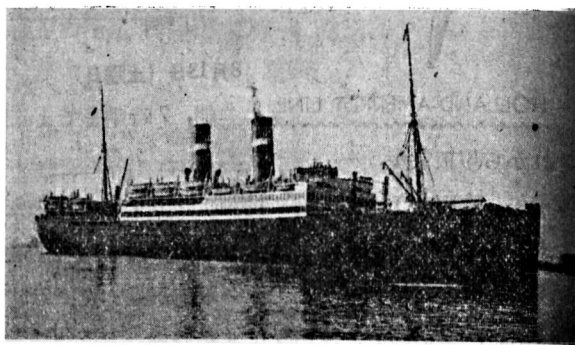
天氣は良くなつたが、うねりが甚だしい。しかし概して言ふと、現今大西洋を渡る船は以前に比べてよほど改良された効果が著しく、前の Deutschland 號でも、今の Volendam 號でも、揺れが少ない。

15時、娯樂室で“Hurricane”と題する映畫が上映された。

8月18日(木曜日) 晴。正午の船の位置、西經  $40^{\circ}54'$ 、北緯  $45^{\circ}55'$ 。航走 351 哩。

太西洋も半ばを過ぎたので、船客も今日あたりから事務室へ往復して、ニューヨーク到着後のアメリカ旅行の計畫などを始める。

15時半、甲板で競馬遊戯。今夜から毎夜半に時計は30分づつ遅ら



Volendam 號(オランダ・アメリカ汽船會社 25620噸)

す。

8月19日(金曜日) 曇。正午の船の位置、西經  $49^{\circ}11'$ 、北緯  $43^{\circ}20'$ 。航走 349 哩。

朝から海上は濃霧であるが、此の船では霧笛を鳴らさない！

8月20日(土曜日) 正午の船の位置、西經  $56^{\circ}17'$ 、北緯  $42^{\circ}18'$ 。航走 331 哩。

朝起きて見ると、海上は多少の波があり、船も少し揺れてゐる。しかし、もはや米大陸に近づいたので、皆何となくそわ々々しい。午後久しぶりで右舷に船が見える。

18時43分、日没の時、2秒ばかりの美しい緑閃光を見た。空は次第に晴れて、20時からはきれいな星空を楽しむことが出来た。

8月21日(日曜日) 正午の船の位置、西經  $63^{\circ}57'$ 、北緯  $41^{\circ}20'$ 。航走 352 哩。氣溫  $26^{\circ}$ 、水温  $20^{\circ}$ 。

朝 6時に起きて、甲板を散歩したが、追手の微風で、船の上は全く無風に等しい。

11時、一同、船醫の健康診断をうけた。午後は室内で荷物の整理。18時から食堂で“リヨナラ”晚餐。左舷にも、右舷にも、大小の船が頻りに見える。

ニウヨークに近いしである。船の時計は既にニウヨーク市中の時刻と同じになつて了つた。

8月22日（月曜日） 晴。

午前中、船の文庫の圖書を賣却するといふので、自分はエラスムス傳を一冊買つた。

20時頃から右舷にはロングアイランドの岸や、賑やかな灯が見える。21時、船はニウヨーク港口に投錨。空を焦がす街の火を見ながら、今夜一夜は尚ほ船中で靜かに眠る。

8月23日（火曜日） 晴。

特別に皆早く起され、6時に食事。8時に船はホボークの岸壁に着く。それから移民官や税關の検査があつたが、皆、順序よくすんで、10時に上陸、船會社のバスで第42街に出で、それからタクシーで、第74街の國米に落付いたのは11時であつた。



ニウヨークの摩天樓遠望

午後、領事館、川崎汽船(矢島氏)、銀行等をめぐり、英子へ電報を發し、時計の修理などした。ニウヨークは、やはり、暑い。

8月24日（水曜日） 晴。

正午頃から市中へ買物に出かけ、RCAの建物の中にある博物館など見て、22時に宿へ歸つた。明日は出發である。

8月25日（木曜日） 晴。

朝9時半、ニウヨークのペンシルバニア停車場から“プレシデント”號で出發、正午フィラデルフィヤで乗り換へ、14時20分一旦ハリスバーグで下車。ゲテスバーグの古戦場を見物しやうかと思つたが、暑さに閉口して、止め、15時發の急行列車に乗つて了つた。アメリカの汽車は、冷房裝置が完全なので、救はれる。20時25分、ピッツバーグ着。フォート・ピッツ・ホテルに入る。

8月26日（金曜日） 晴。

此のビツバグは1933年に來たことのある土地であるが、今回こゝに來たの



R. C. A. ラジオシティ

は、目下建築中のプラネタリウムを見るやうに、ツアイス會社の人々に薦められたからである。それで、今日は早速其の場所へ行つて見た。此所はノース・サイドで、オハヨ街とフェデラル街との交る所で、もと市役所のあつた跡で、建築は今第一階だけを終つたばかり、完成は前途尙遠い。“Buhl Planetarium”と名が表示されてゐる。

午後、Loews 劇場で評判の Marie Antoinette を見、其の記念に Theroigne de Méricourt 傳を買つた。汽車中の讀みものである。

20時、ビツバグ發、シカゴに向ふ。

8月27日(土曜日) 晴れ。

早朝、フォート・エーンで中央標準時となる。6時10分、シカゴ市ユニオン停車場着、直ちに北西停車場に移つて、食事して、市中へ出かけようとしてみると、偶然にもパークリ市のロイシナ教授に會つた。同氏もストックホルムからの歸りである。暫く立ち話して再會を約して別れ、それからフィールド博物館と水族館とを見た。午後、第36街のY. M. C. I.を訪れたところ、いつの間にか長札が變つて了つてゐるのを見て、驚いた。シカゴは萬年日光節約時刻である。



豪華な食堂車の内部

22時、北西停車場發のチャレンジヤ號に乗り、カリフォニヤに向ふ。